

2018年度 学校法人大和学園 京都調理師専門学校 学校関係者評価者委員会 議 事 録

1. 日 時 2019年2月8日(金) 15時00分～16時00分
2. 場 所 京都調理師専門学校 4F会議室
3. 出席者 ①企業などの役員又は職員
 委員 田村 圭吾 様 (京料理萬重 若主人)
 委員 伊藤 道彰 様 (株式会社円居 常務取締役)
 委員 赤松 佐知子様 (株式会社グラマラスフード 代表取締役)
- ②卒業生
 委員 伊藤 剛治 様 (株式会社比良山荘 主人、90年調理師科夜間部卒業生)
- ③学校運営や教育に関する有識者
 委員長 水野 裕士 様 (学校法人 大和学園 評議員、京都栄養医療専門学校 副校長)
- ④委員会事務局
 仲田 雅博 (京都調理師専門学校 校長)
 作岡 友樹 (京都調理師専門学校 教務部長)
 安部 典子 (京都調理師専門学校 教務主任)
 上田 恭平 (京都調理師専門学校 教務部)

4. 議 事 1. 2017年度自己評価結果について
 (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動
 (4) 学修成果 (5) 学生支援 (6) 教育環境
 (7) 学生の受入募集 (8) 財務 (9) 法令等の遵守
 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流
 ⇒2017年度自己評価結果について学校関係者による評価

2. 学校運営への提言について

5. 議事の経過及び結果

進行	内容
■開会挨拶	<事務局：仲田校長より> 昨年に引き続き、ご出席いただきありがとうございます。今回は本校の調理師科および調理師科夜間部につきまして、教育に対するご意見やご指導をいただき、改善をしていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。
■委員紹介	<事務局：作岡より> 本委員会の委員紹介、及び事務局員の紹介があった。
■委員長選出	<事務局：作岡より> 規定により、互選にて委員長を選出する旨説明。「京都栄養医療専門学校副校長 水野裕士 氏」が選出され満場一致にて承認された。 ◆委員長：京都栄養医療専門学校 副校長 水野裕士 氏 就任 <進行：水野裕士委員長（京都栄養医療専門学校 副校長）>

■議題

1. 2017 年度自己評価結果について

・学校の教育目標
・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

・評価項目の達成及び取組状況

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動

- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境

事務局 作岡より 2017 年度自己評価について説明がなされた。その後、各評価項目ごとの結果及び課題、今後の改善方策について説明がなされた。

作岡より資料に基づき説明

各委員より

田村委員より

先日、ラ・キャリアールクッキングスクールにて高校生向けの講義を行った際に、こちらの調理師科卒業生の方に助手を務めていただいた。その時の働きぶりを見て、学校の教育効果の高さを改めて感じた。

伊藤剛委員より

(質問)：ディプロマ・ポリシーの【進級時、卒業時の到達度】にある技術の評価点である 60 点以上とはどのような基準で評価しているのか。
(回答)：例えば「桂むき」であれば、作品の長さや重さを計測し、明確な数値で表すことによって客観的に点数化している。同様に「人参ジュリエヌ」も作品の客観的な点数化を行っている。

作岡より資料に基づき説明

各委員より

赤松委員より

(質問)：1 年制の学科では、学外実習のような行事を行っていないのか。
(回答)：授業としては行っていない。希望制ではあるが、インターシップとして事業所に学生を派遣している。

田村委員より

事業所や業界団体との連携については、今後も積極的に行っていただければ良いと感じる。

作岡より資料に基づき説明

各委員より

田村委員より

(質問)：前回の委員会でも述べたが、退学をする原因の一つに経済的事由がある場合は、事業所と学校が連携し、学生にはアルバイトとして事業所で働いてもらうことで支援を受けるような体制を構築できないか。
(回答)：学生が事業所から学費の援助を受ける形でアルバイトを行うと、事業所と学生の間には様々な問題が生じてくる。また、学生がアルバイト代を前借して、学費に充てるようなことを学校側から斡旋することは難しいと考えている。学費納入の期日を延長（延納許可）することによって、実質の月々の支払いを少なくするような措置は取っているため、その範囲で工面してもらうようにしている。

伊藤道委員より

(質問)：学生は奨学金制度を利用できるのか。

(回答)：学校独自の奨学金と日本学生支援機構の奨学金を主な奨学金としている。特に日本学生支援機構の奨学金は多くの学生が利用している。

(質問)：学校独自の奨学金は、学生が卒業する時点で返済する必要があるのか。

(回答)：学校独自の奨学金は給付型であり、原則返済の必要が無い。

(質問)：1年制の学科と2年制の学科の学生数の比率はどのようになっているか。

(回答)：2年制学科の方が1年制学科より学生が多くなっている。

赤松委員より

(質問)：前回も述べたことだが、昨年に採用した従業員が残念ながら夏頃に退職してしまった。その従業員は就職後に一人暮らしを始めた方であったが、そのようなストレスも原因であったのかと思う。企業側としても住宅の支援を始めているが、学校ではどのような住宅支援を行っているか。

(回答)：学校としては、住宅業者と提携し、住宅を斡旋してもらうような支援を行っている。

(質問)：学生寮はないのか。

(回答)：学校として運営している学生寮は設けていない。学生寮に関してはトラブルもあり、学校が運営する負担が大きいということもある。代わりに、本校の学生に限らず、大学生なども含めて多くの学生が暮らす提携学生寮を紹介している。

(質問)：学校として設置しているハラスメント委員とはどのような役割を担っているのか。

(回答)：大和学園グループ校の専門学校4校において、各学校で3名の教職員がハラスメント委員を担っている。具体的な役割としては、学生・教職員を問わず、悩み事や意見があればいつでも相談できる窓口となっている。メールや電話や直接の面談など、手段を問わず相談できる体制を取っている。相談があった場合は、ヒアリングやハラスメント委員会を開催している。

田村委員より

(質問)：ハラスメントの防止として、事業所側に期待される役割もあるのだろうか。

(回答)：働く側からすると、そういった防止策が取られている事業所で働く方が安心感があるのではないだろうか。ハラスメントの防止を強く訴えかけることによって、逆に関係性がうまくいかない場合も懸念されるが、パワハラ等の問題もあるため、あった方が良いと感じる。

<p>(7) 学生の受入募集 (8) 財務 (9) 法令等の遵守 (10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流 ・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 2. 学校運営への提言について</p> <p>■閉会挨拶</p>	<p>作岡より資料に基づき説明</p> <p>各委員より</p> <p>伊藤道委員より (質問)：夜間部の留学生受入れは今後も可能性がないのか。 (回答)：夜間部に入学することを目的としての留学の在留資格取得が不可能なため、それはできない。</p> <p>田村委員より 留学生の受入れに関しては、昼間に正社員として働いて夜間に調理師学校で勉強したいという外国人もいると思うので、是非検討していただきたい。また、新たな在留資格制度の話もあるが、学生が卒業のタイミングでその在留資格で働けるのかも今後注意していく必要がある。</p> <p>水野委員より (質問)：夜間部の年齢層はどうなっているのか。 (回答)：最も低い年齢で16歳、高い年齢だと60代の方も数人いる。</p> <p>(質問)：入学後に学べる内容が、入学前の印象と違うという方はいたか。 (回答)：オープンキャンパスでは個別面談を実施し、学びたい内容と実際に学べる内容とのミスマッチが無いよう努めている。</p> <p>⇒いただいた意見をもとに、今後の学校運営に取り組んでいく。</p> <p><事務局：仲田より> お忙しい中、足をお運びいただきありがとうございました。現場からの様々な意見を頂戴し、学生の教育にしっかり役立てて送り出していきたい。一方で、様々な問題で長く仕事を続けられない方もいるが、学校でもそういったことが無いように指導を行っていく。学校にとっても事業所にとっても厳しい時代ではあるが、より良い教育に邁進していくため、今後ともご意見やご指導をいただき、改善をしていきたいと思うので、引き続きよろしく願いいたします。</p>
---	---